

- 1 主題名 命のかがやき 内容項目 [D 生命の尊さ]
- 2 ねらい 生命には終わりがあり、かけがえのない生命だからこそ精一杯生きようとする態度を育てる。

教材名 「命を見つめて」（出典「新・みんなの道徳 6年」 学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校学習指導要領第3章特別の教科道徳における内容項目[D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること]の[生命の尊さ]、小学校第5学年及び第6学年の指導の観点は、「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」である。本授業の内容は、中学校での「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」へと発展していく。

児童は成長するにつれ、人間の生命の大切さと共に、生きているものすべての生命の尊さについても、理解していくものである。とはいえ、機会がなければ日常的に命のありがたさをかみしめることは少ない。生きている喜びを実感するには、多くの人の支えがあることの認識が大切である。

指導に当たっては、限りある命を輝かせて生きることの尊さや生きることの意義について考え、生命を尊重しようとする態度を育てることが大切になる。また、「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について、体育科保健領域、道徳科、特別活動を通して、教科等横断的に深く考えさせることで、生命を尊重する心情や態度を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級では、これまでに体育科の保健領域の学習「病気の予防」において、病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こること、その予防のために適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておく必要があることを学習してきた。また、日本人の死亡原因の第1位が「がん」であることを学んでいる。しかし、「がん」という病気の名前は聞いたことがあっても「重い病気」「命に関わる病気」などという認識にとどまる児童が多かった。

※実態アンケート 調査結果は省略（令和4年 7月 14日実施）

アンケートの結果から、大半の児童が、がんになると今まで通りの生活ができなくなると考えていることがわかった。また、半数以上の児童が、生活の質を高めることはできないと考えていることがわかった。

多くの児童が、がんそのものについては言葉を知っているだけで、大雑把なイメージしかもっていないということがわかった。そこで、がんの治療については、手術や薬の投与だけでなく、患者の強い意志や前向きな気持ちも重要であることに気付かせ、精一杯生きようとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、限られた命を輝かせて生きることや死を意識しながらも生を全うする気高さに触れることを通して、ねらいに迫るものである。猿渡瞳さんが、余命5年と宣告されながらも、生きる希望を失わず、病気と闘い、生きることの大切さを訴え続けた実話を基にしている。猿渡瞳さんが最後まで自分の生き方を追求する姿を通して、命を輝かせて生きることの素晴らしさについて考えさせることができる教材である。

病気と闘う主人公の気持ちに共感させながら、精一杯生きることの素晴らしさに気付かせるため、主に次の場面を話し合うこととする。

① 弁論大会で伝えようとする瞳さんの思い

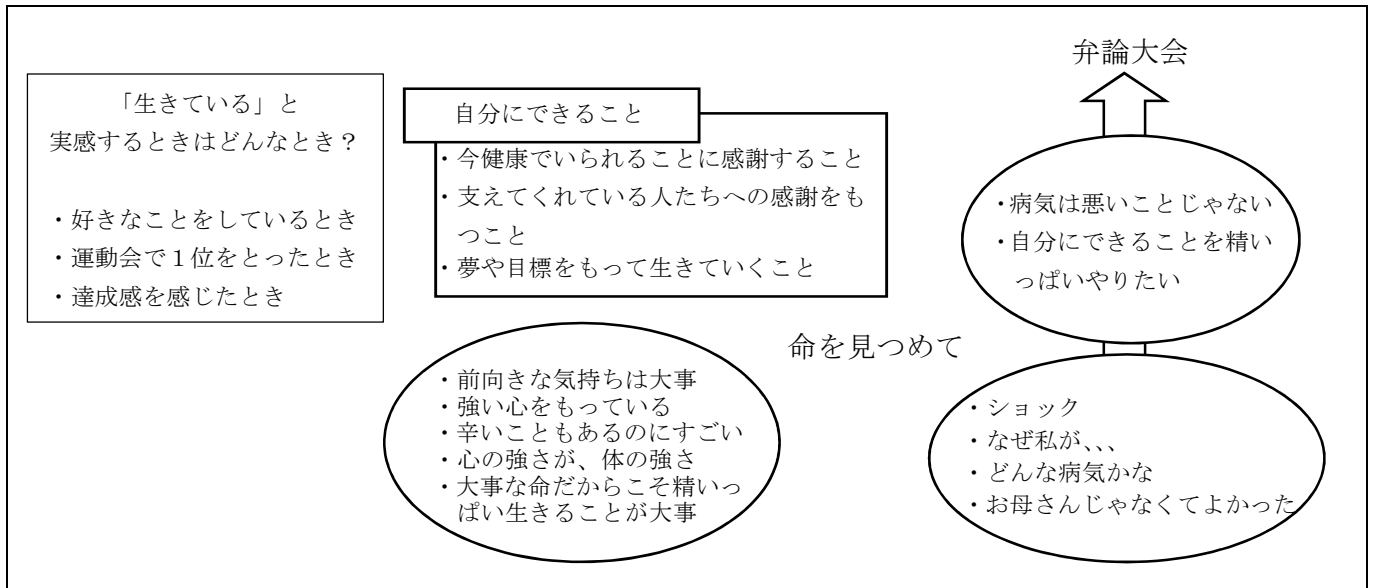
② 病気やけがの人たちの生き方から感じること

主人公の気持ちを押さえながら、自分たちならどうするのか、異なる立場で多面的・多角的に考えさせることで、精一杯生きることの素晴らしさに気付かせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 「生きていると実感する瞬間ってどんなとき」のアンケート結果を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことをしているとき 運動会で1位をとったとき 達成感を感じたとき 	・事前にとったアンケート結果からいくつか紹介する。	5
展開	2 教材「命を見つめて」を読んで、話し合う。			5
	(1) 瞳さんが、がんとわかったとき、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ショック ・なぜ私が、、、 ・どんな病気かな ・お母さんじゃなくてよかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で扱ったがん患者の話などを想起させる。 ・入院生活や今後の患者さんの生活の様子を考えさせる。 	5
	(2) なぜ命の大切さを弁論大会で伝えようとしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・病気は悪いことじゃない ・自分にできることを精いっぱいやりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・死が迫っている状況の中での瞳さんの行動に共感させる。 ・だれに向けてのメッセージなのかを明確にする。 	5
	(3) 病気やけがと闘う人たちの生き方から何を感じますか。(中心発問)	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちは大事 ・強い心をもっている ・辛いこともあるのにすごい ・心の強さが、体の強さ ・大事な命だからこそ精いっぱい生きることが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞳さんの生き方について考えることを通して感じた自分の命の捉え方を基に、病気やけがと闘っている人たちの心情に共感させ、自身と比較しながら考えさせる。 ☆命の大切さや限りあることを理解し、強い気持ちや精いっぱい生きる方法を考えている。(発言) 	10
	3 今までの自分を振り返り、これからの生き方について考える。 ○自分にできることはなんだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・今健康でいられることに感謝すること ・支えてくれている人たちへの感謝をもつこと ・夢や目標をもって生きていくこと 	☆ <u>自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考えたり、自分のこれまでの考えを広げたりしている。(ワークシート)</u>	10
終末	4 猿渡瞳さんの弁論大会の動画*を視聴する。 (関係機関へ使用許可済み)		・力強く生きようとする意欲を高める。	5

板書計画



5 他の教育活動との関連

【横断的な単元の教育】(全10時間 保健8時間 + 道徳1時間 + 特別活動1時間)

保健領域		ねらい
① 9/15	病気の起こり方	病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こることを理解できるようにする。
② 9/29	感染症の予防	病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを理解できるようにする。
③ ④ 10/7 10/11	生活習慣病の予防	生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、など、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。
⑤ 10/26	喫煙の害と健康	喫煙は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑥ 11/2	飲酒の害と健康	飲酒は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑦ 11/9	薬物乱用の害と健康	薬物乱用は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑧ 11/16	地域の保健活動	地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解できるようにする。

特別の教科 道徳 (本時)		ねらい
① 10/19	「命を見つめて」	生命には終わりがあり、かけがえのない生命だからこそ精一杯生きようとする態度を育てる。

特別活動		ねらい
① 10月下旬	自分たちにできること、これからの生き方 外部講師による講話	がんについて理解し、健康と命の大切さについて考え、自分が取り組む行動目標を決めることができる。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義や、病気への向き合い方について様々な観点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考えたり、自分のこれまでの考えを広げたりしている。